

## 平成30年度 第2回 可児市男女共同参画推進審議会 議事要点録

日時 平成30年7月17日(火) 午後7時00分～午後9時00分

場所 可児市広見地区センター 1階 会議室3

出席者(委員)7人(50音順・敬称略)

稲垣 守浩、岩田 武、大池かおり、後藤 いつき、玉置 良子、  
中島 美幸、山田 博司

(事務局)4人

市民部担当部長 瀨瀬 新吾、人づくり課長 遠藤 文彦、  
人権・男女参画係長 渡邊 かおり、人権・男女参画係主査 川野 悦子

(コンサルタント)1人

株式会社名豊 倉島 芳彦

欠席者 片桐 厚司、片桐 妙子、澤村 祐子、長谷川 彰、吉岡 誠

### 1 あいさつ

部長あいさつ

会長あいさつ

- 会長 5月に「候補者男女均等法」といった法律ができました。努力義務ですが、できるだけ候補者の男女が同数になるようにといった法律が通り、施行ということで動き出しています。まだまだ日本は国会議員をはじめとして議員に女性が少ないので、政策の場に女性を増やす動きを推進していきたいと思います。

### 2 議題

#### (1) 市民意識調査結果について

- 事務局 資料1に基づき、「可児市男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書」について説明

#### **主な意見等**

- 会長 子どもの育て方についての意識調査ですが、32ページの男の子に対してと37ページの女の子に対してのところが一つの表でみられるようになったらよいと思います。そうすると賛成、反対の市民の方の比がよくわかると思います。

#### (2) 「可児市男女共同参画プラン2018後期計画」進捗状況について

- 事務局 資料2、資料5に基づいて説明

## 主な意見等

- 会長 防災会議というのは恒常的に開かれるわけではないのですか。
- 事務局 内容を変更する時に開催されます。現時点のメンバーの中には女性もいらっしゃいます。
- 委員 6番の「DVについての相談件数」です。これも捉え方の問題ですが、本当は減らなければいけないのに、増加という目標なのですか。
- 事務局 相談が増えたということは、今までDVがどういったものかわからなかった方が多く、自分がDVをされているということを理解したということもあると思います。
- 委員 DVをなくすためには相談が多くなるのですね。
- 会長 6番(3)の「被害経験がある」女性の割合は1%ほど減っています。これは、誤差の範囲だと思います。それを考えると、逆に相談件数が減っているというのは、やはり抱え込んでいる人がいると考えたほうがよいと思います。
- それと9ページ5番の「こども課」の「男女平等教育の視点に立った玩具、教材等の点検」のところに「選定配慮の必要性は薄れてきている」とありますが、相変わらずまだまだ問題は大きいと思いますので、選定配慮の必要性はあると思います。
- 委員 教材があつたらよい教育ができるかというわけではないと思います。選定配慮の必要性は薄れてきているというのは表現的におかしいのではないですか。薄れてきているというよりは、役割を終えているという感じではないですか。
- 会長 これまでも日本に関しては、国連から、教科書、教材の見直しを速やかに済ませるようにと言われていきますので、まだ必要だと思います。
- 委員 9ページ6番の「こども課」の「実績」について、計画もそうなのですが、実績に「運動会や発表会などで男女別の区分を排除することで、間接的ではあるが男女共同参画への意識づくりを推進した」とあります。そういったことで意識づくりは推進できたのですか。
- 会長 どこまで意識がつくれるかは別ですが、きっかけにはなるのではないのでしょうか。私は意味のあることだと思いますがいかがでしょうか。
- 委員 やることにももちろん意義はあると思うのですが、もう少しいろいろなことを進めていこうというところはありませんか。少し足りないと感じます。
- 会長 例えば保護者会などで、男女共同参画に関するような催し物を行ってもらおうといったことでしょうか。保護者の方が集まれる機会というのはありますか。
- 委員 自由参加ですが、栄養指導などを行っています。
- 会長 どれくらい集まられますか。
- 委員 栄養指導のときは10人ほどで少なかったです。

- 会長 2年ほど前、文科省からLGBTのお子さんが抱える問題の重さから、制服やトイレの見直しを下さい。と言われ、今年4月開校の柏の葉中学では制服を男女どちらでも選んでも良いという取組が始まりました。
- 委員 トイレの見直しといわれましたが、どのように見直すのですか。
- 会長 トイレは「男女」だけではなく、誰でも使えるトイレと言うことだと思います。障がい者用のトイレを少し拡大して、「誰でも使えるトイレ」にすると意味です。
- 委員 家庭用トイレみたいなものですね。
- 会長 そういったことですね。究極にはすべてのトイレを個室化していけば分ける必要はないと思いますが、ただスペースの問題があるのでなかなか難しいと思います。建物のキャパシティにもよりますが、そういった動きもないことはないです。これという正解はないと思いますので、試行錯誤しながらよりみんなが快適に気持ちよく使えるとよいです。
- 委員 9ページの「子育て支援課」の中に「リーダー研修会」とありますが、これはどういったものですか。
- 事務局 それぞれの小学校、中学校の家庭教育学級の長が集まった会がリーダー研修会です。いちばん最初に研修を開いて、そのときにそれぞれの学級が参考になるようなお話をいくつか出していきます。その中からテーマを選ぶといった会です。
- 会長 付録の最後から2ページ、下から5番目の「男性の育休取得」が0となっています。女性もほとんどいらっしゃらないのですが、男性が0というのはなんとかならないでしょうか。
- 委員 2か月くらいで技術はどんどん進歩していきます。育休から復帰して仕事についていけなくなることが苦になってしまうので、ワーク・ライフ・バランスの中のひとつで、絶対に定時で帰れるような仕組みに変えるなど、そちらが先ではないですか。
- 会長 両方だと思います。  
2025年問題といわれていますが、団塊の世代はすべて後期高齢者になります。かなりの人数の方が介護を必要とされます。この辺の数字はおのずと増えていくと思います。その辺の支援もしていきたいと思います。
- 委員 夫婦でどちらかが取るかということですから、夫婦が決めることですね。
- 事務局 どちらも取ればよいです。交代で取れたらよいですね。

### (3) 次期プラン体系案について

- 会長 次期プラン体系案ということで資料3、4について説明をお願いします。
- 事務局 資料3、4に基づいて説明

## 主な意見等

- 委員 資料4の③の「強み」の上から2行目「女性が職業に就くことについて、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就くほうがよい」の割合が4割半ば」ということで結構多いです。これは強みなのだろうかと感じます。
- 名豊 強みと弱みという表現も表裏一体なところがあるというのが正直なところですよ。この部分で強みとさせていただいているのは、いわゆる復職への意向が非常に高いということです。可児市のM字カーブについては、平成22年と27年の国勢調査を比べると、27年のほうがM字の谷が緩やかになってきているので、その部分は改善しています。この部分については復職したい方が4割半ばですので、この方々がいかにハードルなく復職できるかという支援が必要です。
- 会長 可児市もそうですが教育に関しては平等だという市民の方はすごく多いです。それと同様に学生たちも授業で学校教育に触れる前は、学校は平等だと思っています。ところが踏み込んで授業をやっていき、ここにもあるのだと気づきます。我々自身もそういうものだと思ってスルーしてきたのですが、改めて見直してみると問題点の多いところですよ。
- 委員 市民意識調査の全体の数と傾向を年代別にみると、20代から30代は回答が少なく、全体的に女性がプラスで100人くらいです。大人に聞くのではなく子どもに年代別で取っていくと、意外と大人が考えていることと逆の答えが返ってくるのではないのでしょうか。子どもの意識調査をやってみるとよいのではないですか。
- 委員 中学生のデータは出ていますよね。
- 会長 そういった意識調査自体は非常に少なく、可児市は岐阜県内では1市だけです。愛知県でも子どもの意識調査をしているところは少ないです。ただ、少ない中で見てみると、やはり職業についての性別の意識などはまだ固定的です。いちばん決定的なのは、自己尊重、自己肯定感は極めて女の子が低いということが特にいえます。子ども意識調査は次年度行いますので、そこで子どもたちに負担のない限りで聞いてみたいと思います。それをまた施策にも反映していこうと思います。
- 委員 資料4の④「強み」で、「市職員の育児休業取得者数が女性で15人と増加」とあります。「弱み」のほうに、男性のほうで「0」と入れてはどうでしょうか。これもかなり重要なことだと思います。
- 会長 4番の「強み」に女性が15人だったら、「弱み」のところ男性は0人と入れたほうがよいということです。
- 名豊 ご指摘のとおりだと思います。紙面の都合上、割愛している部分もあります。確かにそこは大きな課題だと思います。この計画書に載せ込んでいくときにも、当然状況なども相談して載せ込んだり課題として挙げたりということもあると思

いますので参考にさせていただきたいと思います。

- 会長 産後うつというものがあり、そのピークが出産後2週間くらいです。初産の女性の場合、4人に1人がなります。特に第2子や第3子の場合ですと、もう2人目だし3人目だから慣れているといいますが、上の子どもがいますから余計に負担です。ですからこの時期、ぜひ男性たちも育児休暇を取ってそばにいてあげたり、あるいはそばにいらなくても上の子どもの面倒をみるだけでも違います。
- 委員 自己肯定感と一緒にですね。自分の性がなんであるかから始まって、中学校、高校で女の子、男の子を意識するようになります。肯定感の低い子ほど「私はもてない」と思う傾向にあります。
- 会長 今日は大きく3つ議題がございました。「市民意識調査」と「進捗状況」「プランの骨子」ということで提示がありました。全体的にご意見はございませんか。ないようでしたら、議事については終了させていただきます。
- 事務局 今回お示ししました体系案に基づいて、今後計画案の作成を進めていきたいと思っています。

### 3 その他

- 事務局 次回審議会の日程について説明

終了